

～拓殖大学では、研究所の研究成果を皆様に公開しております、お気軽にご参加ください。～

受講料:【無料】 定員:250名(事前申込は不要です、当日直接会場にお越しください。)

10月4日(土)「竹島・尖閣問題と日本外交の課題」

講師:下條 正男(拓殖大学国際学部教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

韓国に竹島を不法占拠されて60年。その間、解決の機会がなかったわけではない。2005年3月、島根県議会による「竹島の日」条例の制定とそれに対する韓国側の反応もその一つである。だがその「竹島の日」に不快感を示したのは韓国側だけでなく、自民党政権下の外務省高官であった。民主党政権下、尖閣諸島の国有化で中国側の対日攻勢が強まった。歴史的にも日本の領土である島々が侵奪され、今また侵略の対象となっている。それを打ち破る外交力が何故ないのか。日本外交の課題を明らかにする。

人文科学研究所主催公開講座

10月11日(土)「法の下での平等と家族」―戦後の最高裁判決を振り返って―

講師:椎名 規子(拓殖大学政経学部教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

わが国の家族に対する法的対応は、いま大きな改革を求められている。その背景としては、ひとつには、核家族化などによる社会における家族の実態の変化であるが、さらに重要なのは、子どもの権利条約などの国際条約からの要請という点である。わが国では、欧米各国とは異なり、これまで大きな家族法の改正は行われてこなかった。しかし近年最高裁の違憲判決を受け、法改正が行われている。そこで、戦後の最高裁判決を振り返り、さらに国際的な流れに沿って、今後わが国の家族法が進むべき方向を考えたい。

政治経済研究所主催公開講座

10月25日(土)「中国の資源開発と少数民族問題」

講師:奥田 進一(拓殖大学政経学部教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

中国の目覚ましい経済発展は資源開発と密接不可分にあり、その資源の多くは内モンゴル自治区、新疆ウイグル自治区あるいはチベット自治区などの少数民族居住地に所在している。しかし、少数民族の多くはその開発利益をほとんど享受できず、むしろ想像を絶する貧困に喘いでいるという。その矛盾は、暴動やテロのような形で顕現化する。本講演では、かかる少数民族問題の遠因となっている中国の社会制度上の問題点を明らかにする。

政治経済研究所主催公開講座

11月1日(土)「福澤諭吉の『帳合学のすすめ』」

講師:三代川 正秀(拓殖大学商学部教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

啓蒙思想家福澤諭吉の実学志向は翁が翻訳出版した『帳合之法』に具現される。しかし、後世この書を知るものは少なく、単に『学問のすすめ』に実学の香りを聴くのみです。「帳合」は江戸時代に完成する多帳簿複式検算簿記のことです。翁はこの国初の洋式簿記書を慶應義塾出版局で印刷し、日本橋通り三丁目丸屋善七店をはじめ各地で簿記稽古に務めた。この書はよく売れたが、実務として普及することはなかったようです。この経緯を皆さんと語りあいましょ。

経営経理研究所主催公開講座

11月22日(土)「3Dプリンターやレーザーカッターによるものづくり環境の変化」

1部講師:竹末 俊昭(拓殖大学工学部教授)「『ものづくり』が企業から個人へ、そして社会へ」

2部講師:渡辺 ゆうか(ファブラボ鎌倉代表)「ファブラボ鎌倉の取り組み」～Learn/Make/Shareを軸に学びの環境を促進～

13:00～15:00(受付開始12:30)

ものづくりの環境が企業から個人にシフトし始めています。『MAKERS』や『FabLab』に著わされているように、子供から専門家までがDIWO(Do it with others)の精神で連携しながら、3Dプリンターや、レーザーカッターなどで自由にもものづくりをする活動が広がってきています。ネットワークを介して世界に広がるソーシャル・ファブリケーションの実態を解説するとともに、事例としてファブラボ鎌倉の取り組みについて紹介します。

理工学総合研究所主催公開講座

※本学の公開講座、オープンカレッジ、シンポジウムなど受講にあたってのお願い

みなさまに気持ちよくご参加いただけるよう、以下の事項を必ずお守りください。

- 携行品の盗難、紛失、破損などの責任は負いかねますので、ご了承下さい。
- 車、バイク、自転車での来校はお断りします。各種公共交通機関をご利用ください。
- 次の行為は、ご遠慮頂いております。(受講をお断りすることがあります。)
 - ・受講者、講師等に迷惑となるような行為
 - ・録音、録画、写真撮影
 - ・講義、講演の進行を妨げられると思われる行為
 - ・勧誘、宣伝広告

後援:公益財団法人文京アカデミー

「知的好奇心講座」

後援:公益財団法人文京アカデミー

受講料:【無料】 定員:250名(事前申込は不要です、当日直接会場にお越しください。)

～本学学部教員がおとどける興味深い2つの講座です～

12月6日(土)「もっと知りたいINDONESIA」

講師:末延 俊生(拓殖大学政経学部准教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

オランウータン、チャンプル、ジャランがインドネシア語であることはご存じですか?1万3000の島々に人口2億3000万人が住むインドネシアでは、300以上の民族が700以上の地方言語を話しています。インドネシアの国語であるインドネシア語は、会社や学校などの公共の場で使われ、家族や同じ民族同士などのプライベートな場では、実はジャワ語やバリ語などの地方語が使われています。日本人の大好きなマグロやエビも、その多くはインドネシアから輸入されています。講師の留学時代のエピソードなどを交えながら、意外に身近で知られざるインドネシアを紹介します。

12月13日(土)「紙と蜂とレクをしましょう」

講師:金山 茂雄(拓殖大学商学部教授) 13:00～14:30(受付開始12:30)

日常生活の中で「紙」は、重要であり、かつ大切なものです。一方、コンピューターを使う人たちが多く、以前から言われていることがあります。それは「ペーパーレス化」です。この言葉の意味は、簡単に言うと資料を紙に印刷して保管などしないで、コンピューターでファイルデータとして残しましょう。いわゆる、紙コストの低減などを目的にしています。今回、「紙」から、「紙と蜂」、「紙と遊び」そして、「遊び」としての「紙飛行機」、「折り紙」などを紹介したいと思います。

～春から外国語、始めてみませんか?外国語講座の担当講師がお伝えする3つの講座です～

1月10日(土)「ホシュ・アマディ(ようこそ)アフガニスタンへ」

講師:ファヒム・ナワビ(拓殖大学言語文化研究所講師) 13:00～14:30(受付開始12:30)

アジア大陸のハートとも呼ばれる、7000m級の美しい山々がそびえる多民族国家アフガニスタンはシルクロードの重要な交差点でもあります。標高1800mの首都カブールは3000年の歴史を誇り、最近数十年続いた戦災からも復興しつつあり、伝統と近代都市両方の魅力を合わせ持っています。ジャームのミナレットとバーミヤンの仏像は世界文化遺産として国内外に高く評価されています。紀元前から採掘が続いている青色の宝石ラピスラズリを始め、世界最大規模の各種鉱物、宝石等の豊富な鉱脈が数多く存在することが古くから知られています。その他絨毯、ざくろ、ぶどう、ドライフルーツ等もアフガニスタンの魅力の一部です。

言語を通じて、アフガニスタンの文化、歴史、人々の生活等を紹介したいと思います。

1月24日(土)「サイン・バイノー(こんにちは!)モンゴル。」

講師:吉野 耕造(拓殖大学言語文化研究所講師) 13:00～14:30(受付開始12:30)

遊牧と草原の国として知られるモンゴル国(通称モンゴル)。東アジアの一番北に位置する当国はかつて社会主義国でしたが、冷戦後はいわゆる資源国として目覚ましい経済成長を遂げ、日本との関係も大きく発展しました。知的好奇心講座では、将来に向け、さらなる発展が期待されるモンゴル国の文化、伝統料理、言葉と文字、また当国最大の都市、首都ウランバートルの歴史、観光名所などを紹介します。

2月7日(土)「チベットの伝統食と21世紀的展開」

講師:三浦 順子(拓殖大学言語文化研究所講師) 13:00～14:30(受付開始12:30)

20世紀初め、チベット人たちはどんな食生活をおくっていたのでしょうか。幸いにして当時、入蔵した外国人(その中には河口慧海もいます)たちが、貴族から庶民までの生活ぶりを具体的に語ってくれています。それから一世紀の時を経た現在のチベット人たちの食卓風景がどのような変化をとげたか(あるいはとげなかったか)、映像を見ながら検討してみます。またチベット世界のベジタリアン運動の興隆についても触れてみたいと思っています。

ホームページでご確認いただけます。

拓殖大学 公開講座

検索

会場:拓殖大学 文京キャンパス 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車徒歩3分
〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14

お問い合わせ:拓殖大学オープンカレッジ課 TEL 03-3947-7166

《受付時間》 月～木曜日 13:30～19:00 金～土曜日 11:00～17:00